

企業紹介

# 東京ダイレック株式会社



## ● 当社の紹介

当社は1986年に創業し、気体中に浮遊するナノ粒子・微小粒子の分析・測定・発生・捕集・加工を行う機器・システムの販売を主たる事業としています。現在は、25社以上の世界最先端の装置開発メーカーとパートナーシップを結び、「環境」、「健康」、「産業」、「研究開発」の観点から幅広い分野で100種類以上計測機器を提供しております。また、お客様のご要望に柔軟に対応し、メーカーの垣根を超えたカスタマイズ・ソリューションも提供しており、経験豊富な技術スタッフにより、品質の高いアフターセールスサービスを行っております。

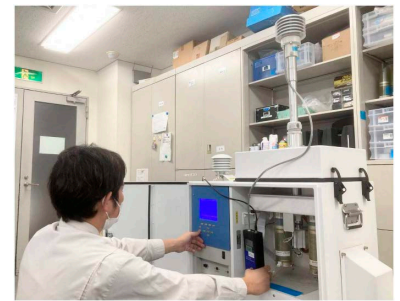
海外からの著名な専門家を交えたセミナーの開催や各学会、研究機関と連携し、勉強会、共同研究などを推進しています。また、SDGs(持続可能な開発目標)の趣旨に賛同し、積極的に取り組み、先進的な計測技術のリーディングカンパニーとして、社会に貢献してまいります。



東京ダイレック本社から見た近隣風景  
(手前:新宿御苑、奥:新宿副都心)

## ● PM<sub>2.5</sub>計測装置と全国保守サポート

環境省の定めるPM<sub>2.5</sub>の測定法の中で、標準測定法/成分分析用捕集法に対応するFRMシリーズ、等価測定法に対応する5014i、5030i SHARP、炭素成分測定法に対応するカーボンエアロゾル分析装置、ガス成分の測定法に対応する機器は、主に環境省および各自治体の測定局に設置されております。専門知識とノウハウを持つ当社社員は全国各地に出向き、計測の質を維持するべく、日々努力しております。



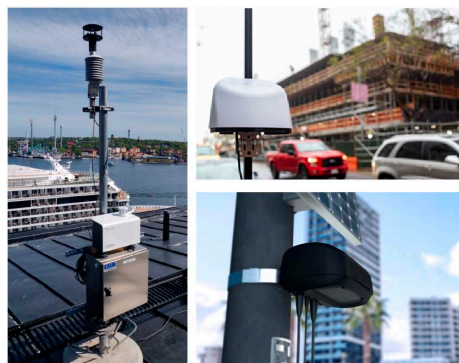
PM<sub>2.5</sub>計測装置メンテナンス作業

## ● 先進的な研究のお手伝い

海外の取引先とともに、国内外の研究動向を共有しており、それらに対応する研究機器をお客様にご提案させていただいております。例えば、大気中のマイクロプラスチックの計測、超微量粒子のサンプリングおよび組成分析などです。また、装置の小型化・ポータブル化が進んだことにより、多地点・広範囲の大気環境モニタリングや移動を伴う機動的な計測ニーズに対応可能となってきております。ドローンへの搭載事例もあり、今後も様々なシーンでの活用が予想されます。当社では、PM<sub>2.5</sub>以外にも、PM<sub>1</sub>、PM<sub>4</sub>、PM<sub>10</sub>、ブラックカーボン(BC)およびガスを計測可能なポータブル型装置を数多くラインナップしております。

最近ではWHOのガイドラインが更新され、PM<sub>2.5</sub>のガイドライン値が見直され、超微小粒子(ultrafine particles: UFPs)やBCの計測が加わりました。このトレンドは各国の大気環境研究および環境規制にも影響を与える可能性があります。例えば、UFPsの計測では欧州技術仕様CEN/TS 16976:2016(粒子個数濃度)およびCEN/TS 17434:2020(粒径分布)に近い計測法および計測装置が必要になると予測されます。当社では両技術仕様には合わせた装置を日本国内の研究者の方々にも安心してご利用いただけるよう準備しております。その一環として、メーカー認証の手法に加え、国家標準にトレーサブルな基準器を使用した校正を実現しております。これにより日本国内で迅速な修理・校正サービスを提供しています。

(楊 柳)



(左図) PM<sub>2.5</sub>などの小型コネクティッドステーション使用例

左: PALAS社 Fidassmart

右上: TSI社 BlueSky™

右下: Ecomesure社 Ecomsmart 2



UFPs計測装置:  
SMPS 3938W50-CEN,  
CPC3750-CEN